

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	一 実践的教育活動を校区内で統 する	①合同授業研等で、連携カリキュラムを有効に活用する。 ②つながり力の育成に向けて、それぞれ（各校園所、各学年）が授業で何を大事にすべきかを明確に持つ。	①連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。 ②各校、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業に取組み、それぞれの実践を各校が交流・取り入れる。	①連携カリキュラムに必要な項目について検討し、追加作成を行う。 ②校区全体で子どもが主体的・対話的に学んでいる授業を実践する。
確かな学力の育成	目標に向かって最後まで努力 できる子どもの育成	・協同学習を通して、生徒がわからないことを「わからない」「教えて」と言えるようにする。生徒が周りに関わり合い（つながり）ながら、主体的で深い学びができる課題設定を追求。 ・家庭学習習慣の改善。 ・生徒会活動を軸にした学習集団の育成。	・生徒が周りに関わり合いながら主体的で深い学びができる授業の展開。 ・家庭学習習慣の改善。 ・生徒会活動を軸にした学習集団の育成。	・全員が参加し、「学び」が保証された授業の展開。 ・家庭学習習慣の改善と発展。 ・生徒会活動を軸にした学習集団の育成。
豊かな人間性を育む	自他の生命と人権を大切に、助け合い、励まし合い、思いやりのある子どもの育成	・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。 ・進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある生徒を育てる ・基本的生活習慣を確立し、正義感、他人への思いやりの心を育てる。	・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。 ・進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある生徒を育てる ・基本的生活習慣を確立し、正義感、他人への思いやりの心を育てる。	・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。 ・進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある生徒を育てる ・基本的生活習慣を確立し、正義感、他人への思いやりの心を育てる。
健康 体力の増進	体力向上を意識して取り組める生徒の育成	・前年度までの取組みの継承。 ・食育の推進。 ・子どもの発達段階や体力・運動能力の状況を踏まえた授業の展開。	・前年度の取組みの継承。 ・新体力テストの実態を把握し、計画的・継続的な体力づくりに努める。 ・運動の日常化を図る取組みの工夫。	・前年度の取組みの継承。 ・学年ごとの系統性を意識したカリキュラムの作成。 ・心と体を一体としてとらえた授業の充実。 ・食育の推進
支 援 教 育 の 充 実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------|---------------|
| ①話すこと・聞くこと | やや課題が残る結果であった |
| ②書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ③読むこと | やや課題が残る結果であった |
| ④言語事項 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 1三 「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く
- ・もっとも正答率の低かった設問 1二 「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する
- ・もっとも無解答率の高かった設問 3二 広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える
- ・もっとも無解答率の低かった設問 2一 話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する

分析

平均正答数で全国平均を若干下回った。全国平均に比べて、全体に対する高位層の割合が低かったことが影響している。国語の学力検査は、授業で取り組んだものがそのまま出題されることがないので、授業や学校の課題を通して読み解く力を付けながら、その上で日々の生活の中で自ら学んでいくことで、その差は埋まっていくと考えられる。

また、これまで「書くこと」の領域が、他の領域と比べて、課題が多く見られる傾向があったが、解消されてきている。朝の読書活動や、視写の取り組み、また国語以外の教科でも「書かせる」取り組みをさまざまに実践してきたことが、この成果につながってきたと考えられる。

○○●数学●○○

(領域ごと)

- | | |
|--------|---------------|
| ①数と式 | やや課題が残る結果であった |
| ②図形 | やや課題が残る結果であった |
| ③関数 | やや課題が残る結果であった |
| ④資料の活用 | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 3 $\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める
- ・もっとも正答率の低かった設問 6(2) 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する
- ・もっとも無解答率の高かった設問 8(2) 「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する
- ・もっとも無解答率の低かった設問2ー 1 a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ、ほか、7(2)・8(3)

分析

数学科では、授業内で『学びあい』を取り入れており、問題を解くだけでなく、説明することにも照準を当てて取り組んできた。そうした取り組みの課題を解決しようとする姿勢が、無解答率の数値に繋がっていると考えられる。また、各領域において課題が見られたが、平均正答率では府平均にあと少しである。しかし、全体に対する低位層の割合が若干高いことから、数学を苦手とする生徒の多いことが読みとれる。こうした生徒の学力向上に向けて、計算問題や基礎的な知識の定着を図る取り組みを増やす必要がある。

○●英語●○

(領域ごと)

- | | |
|-------|---------------|
| ①聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ②話すこと | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと | やや課題が残る結果であった |
| ④書くこと | 課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 1(1) ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する
- ・もっとも正答率の低かった設問 10 学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く
- ・もっとも無解答率の高かった設問 4 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く
- ・もっとも無解答率の低かった設問 1(1) ほか、1(2)(3)(4)、2、3、5(1)(2)(3)、9(1)①

分析

今年度より、「話すこと」の分野のテストが導入された。初めてマイクを使用した録音形式のテストに緊張感を持ちながら、楽しく受験している様子が見られた。この「話すこと」の分野では、質問を理解し、by bus など、単語で答えることはほとんどの生徒ができています。しかし、会話を聞いて、即興で自分の考えを述べるような質問は、無解答率も高く対応できない生徒が多い。授業でも、自分の考えを即興である程度の長さのある文で答える練習をしていく必要がある。「聞くこと」の分野では、書くことが苦手な生徒も、英語を聞いて、適切な絵を選択する問題は得意とするようである。また、「読むこと」の分野も、どの問題も正答率が高かった。

「書くこと」の分野では、全体的に正答率が低い。特に、与えられたテーマについて自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書く問題に課題が大きく残った。最後の問題であったことから、他の問題に時間がかかってこの問題に取り組めていない生徒も多いことも影響していると考えられる。公立入試でも、課題英作文は毎年出題されるため、自分の考えを、簡単な英語を使いながら前向きに取り組めるよう、練習を重ね、自信をつけさせたい。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

平均正答率は、過去5年間の正答率の平均と比較すると、国語と数学の合計で、ほぼ同水準となっている。

また、無回答率は、過去5年間の無解答率の平均と比較すると若干上回っている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

過去5年間の平均と比較すると、学力高位層は上回っていて、学力低位層とエンパワー層は下回っているので、学力は漸進的に上昇傾向にある。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

授業力の向上

(1) 年3回の授業力向上研修

「全員が参加し『学び』が保証された授業」を目指し、教職員全体で研究を進める。

(2) 全教員授業参観交流

全教員が校内で授業を公開、たがいに参観し、協同学習を基本に授業改善に努める。

(3) 教科会議

年間5回以上、各教科の連携を深め、より深い授業研究を目指す。

自学自習の改善

(1) 計画的な宿題

各教科、テスト前に集中して宿題を課すのではなく、定期的に、着実に力をつけるように課す。

(2) ぶらすノート

ST時に次の日の連絡を書き、宿題を確認し、家庭での課題を整理する。また、年間を通して行事予定を把握し、逆算して行動できるように仕掛けをする。

(3) 放課後学習会（ぶらすタイム）

毎週、各学年指定日の放課後に学習会を開催。学生ボランティアの力を借りながら、繰り返し課題に挑戦し、基礎・基本の力をつけていく。

保幼小中連携

(1) 小中授業実践項目

中学校入学後の子どもの不適応予防、学力向上のため、小中で授業の基本的な流れを統一。

(2) 保幼小中連携カリキュラム

校区全体として、「目標に向かって最後まで努力できる子どもを育てる」を目標に、5つの力の向上に取り組む。今年度は「つながり力」。

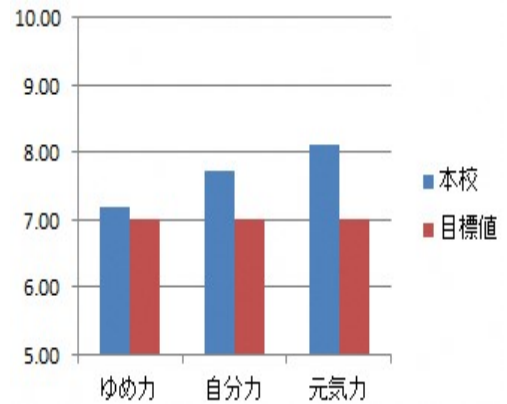
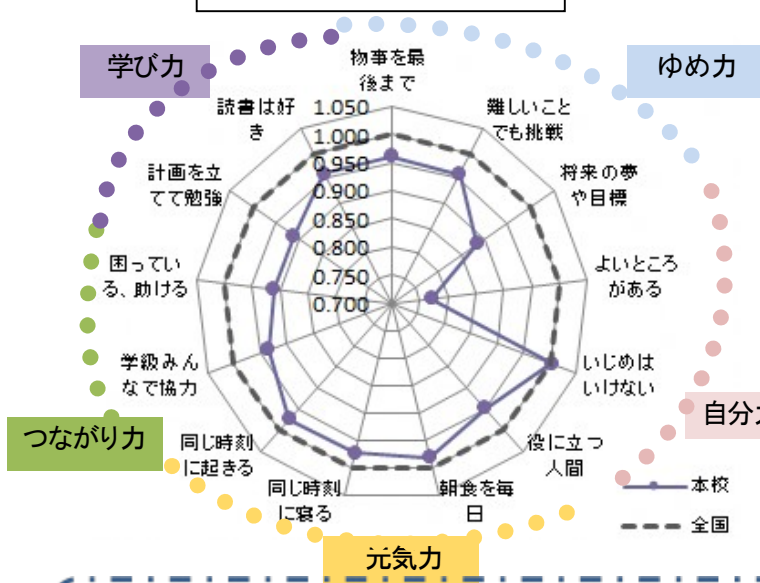
(3) 保幼小中合同研修、保幼小中合同授業研修

校区全体で統一されたテーマを、各校園所で研究し、合同研修にて交流、進行状況の確認、修正を行う。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比

5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は13項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

「5つの力」のうち、今年度算出できる「ゆめ力」、「自分力」、「元気力」のすべてで茨木市の定める目標値を上回った。一方、「5つの力」の指標となる13項目のうち、全国平均を上回ったのは「いじめは、どんな理由があってもいけない」の1項目にとどまった。「自分には、よいところがあると思う」に課題がみられる。

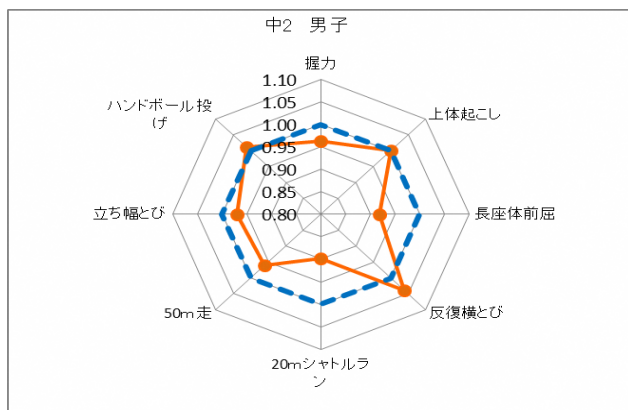
取組み

- ゆめ力・・・キャリア教育や進路教育を中学3年間で計画的に進めている。キャンペーン集会での生徒会活動や道徳の授業・学校通信・学年通信・進路通信・学級通信を通して、子どもたちの意識向上につとめている。
- 自分力・・・学校生活のほとんどは授業で過ごすため、授業の中でスモールステップを乗り越えながらしっかり力をつけ、少しずつ自信をつけていく。いじめについては、日々の学活・道徳や生活の中で指導し、キャンペーン集会でもいじめ撲滅をめざして、子どもたちの心に迫る取組みをしている。
- 元気力・・・各種調査結果から、スマートフォンの使用時間と生活習慣の乱れ、学力との相関関係について学活等で示し、生活習慣の改善に努め、家庭学習の向上へとつなげていく。
- つながり力・・・ペアや班活動など、周りに関わる活動に重きを置いて授業を実施し、学力の向上を図るとともに子ども同士で対話をする機会を多く持っている。また、班長会議や合同班長会議など班を中心に一人一人のつながりを持たせている。さらに、生徒会の委員会活動を定期的に全学年同時に行い、リーダー層の育成と学年を超えたつながりを持たせている。
- 学び力・・・学ぶ意欲を持たせるために、ぷらすノートを活用し毎日の学習や課題等の整理を図る。授業では生徒が受け身にならず、周りに対話しながら思考を深められる、全員の学びが保証された授業を目指している。また、授業での小中共通実践項目の実施や学びに集中できる学習環境を整えている。

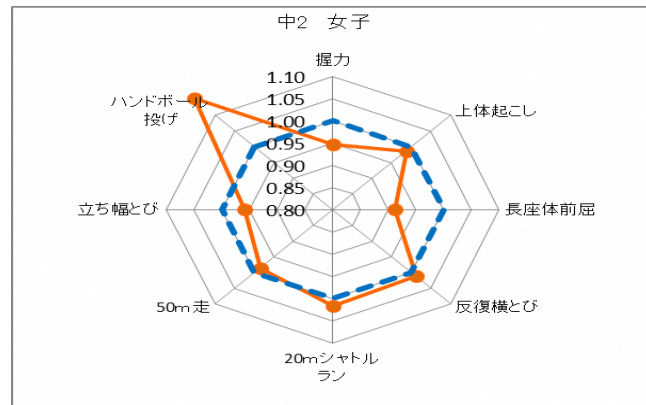
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

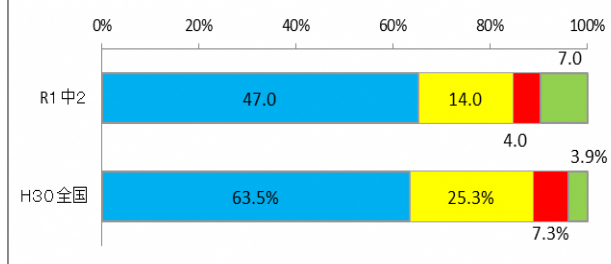
男子（中2）



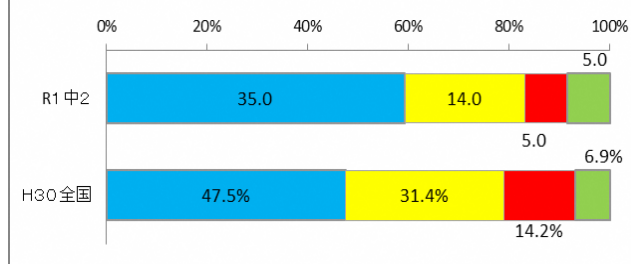
女子（中2）



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■ 好き
 ■ やや好き
 ■ やや嫌い
 ■ きらい

分析

- 男女ともに握力・立ち幅跳び・長座体前屈が全国値よりも下回っている。
- 男子のハンドボール投げ・上体起こし・反復横跳びは平均を上回っている。
- 女子の反復横跳び・シャトルランは平均を上回り、ハンドボール投げは大きく上回っている。
- 男女ともに長座体前屈が全国より大きく下回っており、大きな課題となっている。

取組み

- ラジオ体操後に様々な箇所のストレッチを行い、柔軟性を高める。
- 補強運動時に「サイドステップ」や「グーパージャンプ」「バービージャンプ」や「馬跳び」など様々な動きを取り入れ、敏捷性や巧緻性の向上を計る。
- 授業を通して投げ方の指導を行い、遠投の距離を更に伸ばせるように計画を立てる。